

## 2019年3月期 第3四半期 決算説明会での主なQ&A

Q: SE、今期の利益の低下について理解できない。2Qは一過性（自然災害の影響）だったが、3Qでは改善してもよかったのではないか。プロダクトミックス他、定量的に説明願いたい。

A: 売上の落ち込みは、メモリーを中心に来期以降へスライドしたことによる限界利益、利益率などは推量できよう。10月予想に比べて減収するものの、通期売上2,500億円（予想）は、当社にとっては昨年以上の事態。生産が逼迫する中、顧客ごとの仕様変更などで通常より工数が増加した。例えば、SU-3200（主力の洗浄装置）の場合、顧客ごとに仕様が異なり、新たな部品投入（顧客毎に別部品）が必要でありコストアップとなった（10億円以上のインパクト）。他方、仕損費、クレーム処理などで10億円以上（一過性の性質のもの）。加えて、将来を見込んだ戦略的価格販売（複数機種）もあり、コストが増加した。

Q: SE、経営陣退任（3名）について、何があったのか？

A: 自己都合による退社であり、コンプライアンスや不祥事でないことも申し上げたい。

Q: 業績や経営方針などとの関係があるのか？

A: 業界で著名なSEの社長が、強いリーダーシップでこれまで業績を上げてきたので残念であるが、新社長も業界に精通しており、HDサイドも新体制を万全に支援していく。

Q: SE、4Qにはもう、今回のような（マイナスの）サプライズはない？大丈夫？

A: 既に1月なので、そういったリスクも、本日発表した数字の中に含まれている。

Q: SE、来期に向けて、利益はどのような見通し？

A: 来期のトップラインは、WFE（予想）からみて、大きな期待はできない。しかしながら、中長期的に伸びるとは見ており、成長時期を見据えて、海外のフィールドサービス要員をしっかりと確保しているため、今期増加した固定費は残る。その見方から、トップラインが伸びない場合、固定費は重くのし掛かる。ただし、今期できなかった原価コントロールは可能と考える。

Q: SE、4Qの受注高は減るとのことだが、500億円以上を想定しているのか？アプリケーション別の雰囲気と、2019年の洗浄装置の需要と御社のシェアの見方は？

A: ・受注について：不確定要素として、米中貿易摩擦があるも、ポジティブな状態に変化すれば、中国案件も出てくる。現状、中国案件をカウントしておらず、3Qよりは随分減ると見ている。ファウンドリーは、3Qが大幅に増加した反動で、4Qには減少すると見る。  
・CY2019のWFEについて：▲15~20%想定だが、洗浄領域全般の比率はあまり変わらないと見る。ファウンドリーとロジックの状況は悪くないと考え、当社シェアが落ちることはなからう。

Q: GA、特別損失を計上されたが、来期以降の業績改善の見込みは？

A: 今回計上した事業構造改善費用（約9億円）は、将来の利益改善につなげる。今後は、本来あるべ

き「営業利益率 10%（中期 3 カ年経営計画目標）」を目指し、構造改革を進める。

Q: 全社、現在の HD のマネジメントチームになってから、「予兆管理」を重要視され、ワーク（機能）していたが、今期になってからは様々なことが後手に回っているように見える。売上急拡大への対応以外、課題（意識）は何か？

A: HD が、事業会社の現場の動きをリアルタイムで掌握できていなかったと反省している。SE の新体制の下、現場とのつながりを強め（IT も活用）、リアルタイムで把握すべきだと考えている。

〔備考〕

HD: ホールディングス、SE: 半導体製造装置事業、GA: グラフィックアーツ機器事業

以上